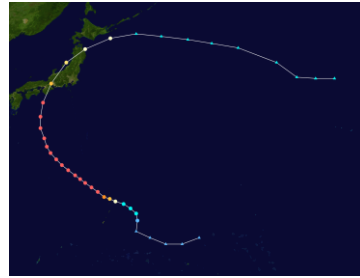


伊勢湾台風から 62 年

9月はとりわけ、忘れられない日が3日ある。わが誕生日であり、「9・11」であり、そして1959年9月26日の伊勢湾台風である。ネットで「伊勢湾台風」を検索すると、写真のような進路図がカラーで掲載されていた。この時期になると読み返す名古屋市『伊勢湾台風災害誌』1961年3月から、台風の経過を振り返ろう。昭和34年9月21日マリアナの東にあった弱い熱帯性低気圧は急速に発達して、22日9時には台風15号となった。26日6時には潮岬の南南西およそ520kmの海上に達し、次第に速度を増し毎時35kmで北に向かった。中心付近の最大風速は60m、中心の気圧は920mbであった。



その後、台風は毎時55kmくらいの速さで北北東に進み、18時過ぎに潮岬の西およそ15kmのところを中心に上陸した。21時には鈴鹿峠付近を通り、22時には揖斐川上流に達した。このとき中心気圧は945ha。最大風速は名古屋で22時に南南東37mを観測した。このように台風15号は、伊勢湾岸地方にとっては最悪のコースを通った。21時30分ごろ名古屋港で最高潮位5.81mを示し、高潮が発生して、台風災害史上かつてない大災害をもたらした。

写真下は「災害誌」付図1最高浸水推移図で、名古屋市南部、名古屋港周辺の浸水の高さを示す。南区の白水・柴田地区方面への浸水は午後9時前後から始まり、この地区には8号地貯木場から貯木を流しながら侵入したものと、天白川をさかのぼった高潮が千鳥橋付近の堤防を破堤して入ってきたものが主であった。これらは水勢がきわめて強く、また水位の上昇も急激だった。



伊勢湾台風が名古屋を襲ったとき、私は名古屋市立千種小学校に通っていた。幸い、千種区は水害には見舞われなかったが、夕方から深夜まで、木製の雨戸をおさえていた。あの長時間にわたる恐怖は、いまでも忘れることができない。数年前、甚大な被害に見舞われた名古屋市南部、白水小学校などを訪ねた。朝日新聞2019年9月19日「天声人語」で白水小学校について書かれている。すこしだけ紹介しよう。

「その日は、秋晴れのよい天気でした。ゆっくり流れて行く白い雲に、別れ別れに、なってしまった母や父や妹のことを、たずねてみました。雲は、だまっていました」。伊勢湾台風で家族を失った小学5年生久野みき子の作文である▼60年前の9月26日、東海地方を直撃した台風は、5千人を超す死者・行方不明者を出す。港に近い名古屋市立白水小学校では142人もの児童が犠牲になった。

(2021年9月26日)